

# 静岡県の産業・金融面の概要

## ■静岡県の全国での位置付けと産業構造の特色

静岡県の県内総生産、人口は、都道府県別順位で「第10位」、全国シェアで「3%」の経済規模と言えます。また、第2次産業のウエイトが43.0%と全国(27.0%)に比べ約+16%ポイント高いこともあり、製造品出荷額等は全国「第3位」の位置付けにあります。

### ▽県内主要経済指標

項目	実数(調査時点)		全国シェア (%)	全国順位 (位)
面積	7,777 km <sup>2</sup>	(2017年10月)	2.1	13
人口	3,675 千人	(2017年10月)	2.9	10
県内総生産(名目)	172,924 億円	(2015年度)	3.2	10
第1次産業	1,425 億円		2.6	11
第2次産業	74,393 億円		5.0	5
第3次産業	95,535 億円		2.5	10
1人当たり県民所得	3,316 千円	(2015年度)	—	6
製造品出荷額等 (従業者4人以上の事業所)	161,321 億円	(2016年)	5.3	3
農業産出額	2,266 億円	(2016年)	2.4	15
林業産出額	113 億円	(2016年)	2.6	10
海面漁業・養殖業産出額	567 億円	(2016年)	3.9	7

資料出所：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「人口推計」、  
内閣府「県民経済計算」、経済産業省「工業統計調査」、  
農林水産省「生産農業所得統計」、「林業産出額」、「漁業産出額」

産業としては、東京、名古屋などの大消費地に近く、東海道の主要幹線が東西に走るといった恵まれた立地環境を生かし、多彩な産業集積がみられることから、当県は、しばしば「日本の縮図」、「産業のデパート」と称されてきました。

特に、製造業については、第2次世界大戦前から地場産業が活発な生産活動を展開していたなかで、戦後は、こうした産業を基盤として新しい産業が興ったほか、東名高速道路の開通(1969年)以降、東京や大阪に本社を持つ企業の工場進出が積極的に行われてきました。このため、製造品出荷額等は全国シェア5.3%(2016年)と、他の指標に比べ高く、当県は「加工・組立型のものづくり県」としての特徴があります。因みに、当県の製造品出荷額等を他の地域と比較すると、北陸4県や四国4県を大きく上回り、東北6県に

迫る水準にあります。全国トップクラスのシェアを誇るものは、自動車や二輪車等の輸送用機械器具、ピアノ、茶系飲料、プラモデルなど多数あります。

### ▽製造品出荷額等の地域比較（2016年）

単位：億円

	静岡県	東北6県	北陸4県	中国5県	四国4県	九州・沖縄県
製造品出荷額等	161,321	170,184	132,490	244,737	85,447	231,710
当県=100	100.0	105.5	82.1	151.7	53.0	143.6

資料出所：経済産業省「工業統計調査（従業者4人以上の事業所）」

また、農林水産業においても、自然環境に恵まれ全国有数の資源を有しており、様々な農林水産物の産地となっています。他方、県東部地域を中心に、富士山、伊豆半島等の豊富な観光資源を抱えており、旅館営業施設数は全国第1位にあるなど、有数の観光県としての一面もあります。

当県の主要産品等に関する統計データについては、以下のリンクをご覧ください。

[全国第1位の静岡県主要産品等（静岡県HP：静岡県の日本一 My しずおか日本一）](#)

## ■グローバル金融危機以降の静岡県経済の構造変化

静岡県は、上記の通り、製造品出荷額等が全国上位の規模を誇るなど、「ものづくり県」として発展を遂げてきました。しかしながら、2008年のグローバル金融危機以降の先進国経済の低迷や、歴史的な円高を背景とした生産拠点の海外シフトの進行等により、当地製造業の空洞化が進みました。また、東日本大震災以降、業務継続体制の強化を意識した企業の県外移転の動きが、空洞化をさらに加速させることに繋がりました。

この結果、製造業の生産、出荷は大きく落ち込み、つれて製造業と関連の深い運輸・倉庫・不動産等を中心に非製造業の経済活動も後退しました。また、製造業・非製造業の後退は、賃金の低迷、雇用機会の減少に伴う人口流出と、それに伴う総労働者数の伸び悩みなど、当地の雇用・所得環境に悪影響を及ぼしました。

近年は、新東名高速道路開通による交通利便性の向上や、県による内陸部への企業誘致により、物流拠点や工場の建設が増加しており、年間工場立地件数は全国トップクラスとなっているほか、県内拠点をマザー工場と位置付け、競争力の維持に向けた研究開発に係る投資を活発化する動きが出てきています。もっとも、引き続き製造業の生産は空洞化が生じる前の水準には至っていません。

## ▽静岡県の製造品出荷額等、製造業事業所数、製造業従業者数の推移

	製造品出荷額等(兆円)		事業所数(千所)		従業者数(千人)	
	2007年→2012年	2012年→2016年	2007年→2012年	2012年→2017年	2007年→2012年	2012年→2017年
(全製造業)	▲ 3.7	0.4	▲ 1.9	▲ 1.1	▲ 64.0	4.7
うち輸送用機械器具	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 15.1	0.8
うち電気機械器具等	▲ 0.8	0.3	▲ 0.2	▲ 0.0	▲ 13.8	3.3

	製造品出荷額等(兆円)		事業所数(千所)		従業者数(千人)	
	2007年→2012年	2012年→2016年	2007年→2012年	2012年→2017年	2007年→2012年	2012年→2017年
(全規模)	▲ 3.7	0.4	▲ 1.9	▲ 1.1	▲ 64.0	4.7
大規模(300人～)	▲ 2.2	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.0	▲ 25.9	6.2
中規模(30人～299人)	▲ 1.1	0.6	▲ 0.2	▲ 0.0	▲ 19.2	6.6
小規模(4～29人)	▲ 0.3	▲ 0.0	▲ 1.7	▲ 1.1	▲ 18.7	▲ 8.1

(注1) 各年にかけての変化(実数)

(注2) 電気機械器具等は、「電気機械器具」「電子部品・デバイス・電子回路」「情報通信機械器具」の合計

資料出所：経済産業省「工業統計調査(従業者4人以上の事業所)」

## ▽都道府県別年間工場立地件数の推移

	2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
1位	茨城	57件	茨城	77件	茨城	84件	静岡	74件	静岡	97件
2位	兵庫	51件	群馬	61件	兵庫	73件	愛知	67件	群馬	62件
3位	静岡	50件	静岡	53件	群馬	57件	群馬、兵庫	56件	兵庫	59件
4位	群馬	48件	愛知、兵庫	47件	静岡	55件	—	—	愛知	51件
5位	愛知	46件	—	—	愛知	52件	宮城	48件	茨城	46件

資料出所：経済産業省「工業立地動向調査」

## ■地域別の特色

### (地域別の特色)

静岡県は35市町(2018年11月現在)からなり、地域別には、富士川と大井川を境にして東部・中部・西部の3つの地域に区分されます。この3つの地域は、歴史的な背景から風土、気質などの面で、それぞれ異なった特色があると言われています。

伊豆を中心とする東部(足柄)をみると、鎌倉時代には北条氏の本拠となり、その後は天領が多かったこともあって、中部(駿河)よりも江戸との繋がりが強かったようです。

これに対し、中部(駿河)は、徳川家康公ゆかりの地として、独自に発展しました。

また、西部(遠江)については、江戸時代に西国大名の江戸侵攻に備えた防衛上の理由から、大井川に橋が架けられなかったこともあって、中・西部間の人々の交流はあまり盛んではなかったようです。

このように、静岡県は、江戸時代までそれぞれの経済圏を形成しており、明治時代の廃藩置県を経て府県制の公布により統合したという歴史的経緯のほか、富士川、大井川などの河川により地理的にも分断されていたため、それぞれ独自の風土、気質が生まれたようです。

### （東部）

伊豆半島は、海浜の景観と豊かな温泉資源に恵まれているほか、首都圏に近いという立地条件もあって、熱海、伊東、下田などを中心とした全国有数の観光地帯となっています。また、御殿場、裾野、三島、沼津といった地域には、首都圏からの交通アクセスが良いことや地下水を豊富に利用できることなどから、大手メーカーの工場が立地しています。富士地域は、富士山の豊富な水源をもとに製紙・化学工業が発達し、パルプ・紙・紙加工品の出荷額は全国一となっています。また、県東部では、近年、医療・健康産業の集積が進み、医薬品や医療機器の出荷額は全国でもトップクラスになっています。

### （中部）

県都静岡市は、行政、商業都市であるほか、家具、雑具等の伝統産業も集積しています。清水港は、県下最大の輸出入額を誇る国際貿易港として発展し、物流拠点が集積しているほか、焼津港は、かつお、まぐろの水揚げ基地で水産加工業も盛んです。遠洋漁業では、まぐろやかつおの漁獲量が全国トップクラスを誇り、これを利用した缶詰の生産量も全国一となっているほか、沿岸漁業では、しらす漁や国内では駿河湾だけでしか獲れない桜えび漁も盛んなことから、食品加工業の立地もみられます。また、牧之原台地はお茶の特産地として有名です。

### （西部）

浜松市を中心とする県西部は、自動車、二輪車、楽器を中心とする工業地域です。現在でも、県西部は、輸送用機械、楽器の2大産業に加え、エレクトロニクスや生産用機械などの機械産業の集積が進み、わが国有数の工業地域を形成しています。他方、温暖な気候を活かしたメロンやみかん、野菜などの農作物栽培のほか、浜名湖でのカキ、のり、うなぎ、スッポンの養殖など、第1次産業も盛んな地域です。

## ■主要な製造業の紹介

県内の製造品出荷額等をみると、自動車、二輪車などの輸送用機械器具が 25.0%を占め、次いで、電気機械器具、化学工業が続いています。全国順位をみると、木材・木製品、パルプ・紙・紙加工品は全国第1位となっており、輸送用機械器具、電気機械器具、飲料・たばこ・飼料などの多くの業種で10位以内にランキングされています。

### ▽県内業種別製造品出荷額等（2016年）

産業中分類	出荷額等(億円)	構成比(%)	全国シェア(%)	全国順位(位)
食料品	13,079	8.1	4.6	8
飲料・たばこ・飼料	10,196	6.3	10.4	2
繊維工業	1,072	0.7	2.8	11
<b>木材・木製品</b>	<b>2,137</b>	<b>1.3</b>	<b>8.0</b>	<b>1</b>
家具・装備品	927	0.6	4.7	7
<b>パルプ・紙・紙加工品</b>	<b>8,171</b>	<b>5.1</b>	<b>11.2</b>	<b>1</b>
印刷・同関連業	1,521	0.9	3.0	8
化学工業	17,261	10.7	6.3	5
石油製品・石炭製品	271	0.2	0.2	19
プラスチック製品	6,252	3.9	5.3	5
ゴム製品	2,073	1.3	6.7	4
なめし革・同製品・毛皮	57	0.0	1.7	16
窯業・土石製品	1,519	0.9	2.1	20
鉄鋼業	2,094	1.3	1.3	17
非鉄金属	5,452	3.4	6.1	4
金属製品	5,153	3.2	3.6	8
はん用機械器具	3,313	2.1	3.0	11
生産用機械器具	7,790	4.8	4.3	7
業務用機械器具	2,647	1.6	3.7	10
電子部品・デバイス・電子回路	2,829	1.8	1.9	24
電気機械器具	20,801	12.9	12.7	2
情報通信機械器具	4,246	2.6	6.3	6
輸送用機械器具	40,251	25.0	6.2	2
その他	2,196	1.4	5.7	5
<b>製造業合計</b>	<b>161,321</b>	<b>100.0</b>	<b>5.3</b>	<b>3</b>

資料出所：経済産業省「工業統計調査（従業者4人以上の事業所）」

### **(1) 自動車・同部品**

軽自動車の国内販売トップクラスのメーカーが立地しているほか、東名高速道路等交通の便に恵まれていることもあって、各完成車メーカーとの取引を行う部品メーカーが東西に亘って集積しており、当県のリーディング産業となっています。輸送用機械器具の製造品出荷額等は、全国の6.2%を占めており、愛知県(38.8%)に次いで第2位の水準にあります。

当業界は、海外需要の拡大に加え、2008年のグローバル金融危機やその後の歴史的円高の影響もあって、生産拠点の海外シフトが進展している典型であり、最近では、国内拠点の高付加価値化や、EV(電気自動車)や自動運転などの次世代自動車への対応が課題となっています。

### **(2) 二輪車・同部品**

静岡県は、原動機付自転車(オートバイ)発祥の地であり、現在でも、国内二輪車メーカー4社のうち、2社の本社が県西部に立地し、関連企業も浜松市を中心に多数集積しています。なお、二輪車・原動機付自転車の輸出額は全国トップです。

当業界では、アジア新興国の発展が顕著となった2000年代初頭から、現地生産化が進展してきました。現在、国内は、研究・開発および先進国向けの高付加価値製品の輸出拠点となっています。

### **(3) 電気機械**

静岡県には、県外大手セットメーカー等の主力工場を中心として、関連の中小電気・電子部品メーカー等が多数集積しています。生産品目も、エアコン、冷蔵庫、洗濯機といった白物家電から半導体などIT関連製品まで多岐に亘っています。また、当県は自動車産業の一大集積地であることに関連して、小型電動機(モーター)等の自動車関連機器の生産も盛んであり、全国に向けて供給されています。さらに、物理研究や医療現場等に不可欠な光電子増倍管、光半導体も当県で生産されています。

当業界も、アジア新興国の経済発展が本格化した1990年代後半以降、現地生産を推し進めてきました。現在、当県は国内向けの高機能のエアコンや冷蔵庫等の開発・生産拠点と位置付けられています。

### **(4) 化学**

静岡県には、医薬品、化粧品、化学繊維等の生産拠点や研究・開発拠点が多数集積しており、化学工業の製造品出荷額等は、県内では、輸送用機械器具、電気機械器具に次いで3番目に高いウエイトを占めています。品目別には、触媒(全国シェア37.2%)、その他合成染料(同24.0%)などの出荷額は全国トップであるほか、自動車産業の集積地であることから、自動車用のプラスチック製品等のシェアも高く、化学工業全体では全国第5位の生産地となっています。

## （５）はん用・生産用・業務用機械

多様な産業集積を背景に、県内には多数の機械メーカーが立地しています。その中でも、工作機械と木工機械は、ともに古い歴史があり、本県のリーディング産業である自動車や楽器等完成品メーカーの発展を支えています。

また、最近では、グローバルなインフラ事業への関与によって、存在感を高めています。

## （６）楽器

楽器生産・販売量が世界トップクラスの企業を中心に、県西部には中小協力メーカーが集積しており、ピアノの出荷は全国で静岡県だけです。

最近では、ICTを駆使したより高付加価値な総合音響システムサービスを提供するなど、いわゆる「B to B」を意識した事業のグローバル展開にも注力しています。

## （７）紙・パルプ

富士市周辺には、紙・パルプ業界における国内トップクラスの企業グループの生産拠点をはじめ、白板紙や衛生用紙等を生産する多くの中小メーカーが集積しており、静岡県は全国有数の紙産地となっています。このため、パルプ・紙・紙加工品の製造品出荷額等は全国第1位を誇っています。

最近では、製紙産業の技術を生かし、植物繊維を利用したセルロースナノファイバー産業の創出に向けた取り組みがみられるなど、新たな素材産業への発展の可能性が期待されます。

## （８）缶詰・飲料

県内の缶詰業は、焼津港や清水港で水揚げされるまぐろやかつお、および後背地の丘陵地帯で収穫される温州みかんなどを原料に、その立地優位性を活かした地場産業として発展を遂げてきました。当県の缶詰の生産量をみると、まぐろ類缶詰、かつお類缶詰ともに、国内生産のほぼ全量を占めており、最近では、高付加価値部位を原料としたプレミアム商品を手掛けるなどして、トップシェアを確保しています。

また、飲料業では、当県の豊富な水資源を活かし、ソフト・アルコール飲料のODM・OEM拠点が集積しています。

## （９）伝統・地場産業

県内神社・仏閣の造営・修造に際し培われた「塗物」の技術と、南アルプスの豊富な森林資源を活かし、仏壇、家具、雛具、下駄等の産業が発達しました。また、県西部には、短繊維綿織物や別珍・コール天等の織物産地が形成されてきました。近年、こうした伝統産業は、生産量が減少しており、今後は、地域ブランドの強化やインバウンドへの伝統産業のPR、技術の他分野への応用など、新たな市場の開拓が課題となっています。

## ■農林水産業の特色

### (1) 農業

全国有数の長い日照時間を活かした農業が盛んです。古くから傾斜地や台地を利用して茶やみかんの産地を形成しているほか、平野部では野菜や花の生産が盛んに行われています。茶（生葉、荒茶）、温室メロン、ガーベラなどが収穫量または産出額で全国第1位となっています。

また、大手製造業が工場等の跡地を大規模農地として活用する動きのほか、ICTの活用や農地集約等によって、生産性の高い先進的な農業を目指す取り組みが広がっています。

### (2) 林業

天竜川・大井川の上流に豊富な森林資源があり、それらを伐採し川を利用して運搬できたことから、林業は古くから両流域で発達してきました。江戸時代には駿府城の造営もあって、育成林業の手法を確立した先進的な林業地帯として発展し、遠州林業は全国的に名の知られた存在となりました。戦後、外国材の流入によって、当県産木材のシェアは次第に低下してきましたが、現在でも天竜地域のスギや富士地域のヒノキに代表されるように、県内各地で特色ある事業が行われています。

また、最近では、CLT（直交集成板）を新たな素材として活用する動きが広がるなど、今後の発展の可能性が期待されます。

### (3) 水産業

近海に資源豊かな漁場を抱え、桜えびやしらす等の沿岸漁業、まぐろやかつおを中心とした沖合・遠洋漁業、うなぎやスッポン、にじます等の養殖業など様々な水産関連産業が発達しており、きはだまぐろ、かつお、桜えび等が漁獲量で全国第1位となっています。駿河湾は最深部が約2,500メートルと日本一深い湾であることから、多様な魚類が豊富に生息しており、桜えびは国内では駿河湾でしか獲れない貴重な特産品となっています。

最近では、水産業の持続可能性を担保するための海洋資源の保護や、鮮度の高い水産物のグローバルな販路開拓のために必要な冷凍・解凍技術の開発等が課題となっています。

## ■観光産業の特色

当県は、豊富な観光資源を有しているほか、旅館営業施設数が全国第1位にあるなど充実した観光インフラも有していますが、団体客需要の減少などを背景に、客数が伸び悩む局面が続いてきました。こうした中、日本を訪れる外国人観光客の急速な増加に伴い、観光産業においても明るい動きがみられています。今後、こうした外国人観光客を含む交流人口の拡大に向けた地域資源の活用が、当県観光業界にとって大きな課題となっています。



## (1) 伊豆

多数の温泉が湧く全国有数の観光地です。首都圏からの交通が便利な東伊豆、太陽豊かな南伊豆、緑豊かな西伊豆、落ち着いた中伊豆と、地域毎の特色も様々です。伊豆半島は本州で唯一、フィリピン海プレートの上であり、地質上の見所が多いことから、2018年4月に「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。このほか、最近では2015年7月に「明治日本の産業革命遺産（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）」の1つとして、韮山反射炉（伊豆の国市）が世界文化遺産に登録されました。

## (2) 富士山

山梨県境にあるわが国の最高峰で、海外も含めた多くの登山客、観光客で賑わっています。主な4つの登山ルートのうち3つが静岡県からのものであり、白糸の滝や朝霧高原など、関連する観光地も多数あります。富士山本宮浅間大社など、信仰の対象にもなっており、2013年6月には「信仰の対象と芸術の源泉」として、富士山が世界文化遺産に登録されました。

## (3) 静岡、清水

静岡市内には、駿府城公園や静岡浅間神社など、徳川家康公にゆかりのある旧跡が数多く残されています。また、日本平は富士山の眺望で有名な景勝地で、その名はヤマトタケルに因んでいます。日本平からロープウェイで渡る久能山東照宮（社殿は国宝）には徳川家康公が祀られており、急な石段を降りた駿河湾沿いでは石垣いちごの栽培が盛んです。その近く、三保の松原は、海岸線に美しい松が並び、世界文化遺産である富士山の構成資産にも登録されました。このほか、清水港には海外からクルーズ船が来航しています。

## (4) 浜名湖

浜松を中心とする「遠江（とおとうみ）国」の語源は、浜名湖が京都からみて近江（琵琶湖）より遠くにある大きな湖であるところからきています。浜名湖は汽水湖で魚種が多く、うなぎやスッポンなどの養殖が盛んなほか、釣りやプレジャーボートなど様々なマリナーを楽しむ人々が集ってきます。近くには温泉（舘山寺温泉など）やみかんの特産地（三ヶ日）もあります。

## (5) その他

各地に残る旧東海道の石畳や街並みのウォーキング、深い緑に覆われた南アルプスへの登山、天竜川、大井川、富士川などでの川遊び、駿河湾での海水浴など、様々な観光資源が県全土に亘って広がっています。安倍川上流の梅ヶ島温泉、大井川中流の寸又峡温泉など、伊豆以外にも多くの温泉があります。

## ■金融面の特徴

当県（2018年11月末現在）には、地銀3行、第二地銀1行、信金12金庫<sup>※</sup>、信組1組合、労金、県信連、県信漁連、農協18組合が本拠を構えています。また、県外からは大手行、第二地銀、信託、信金、信組、政府系・系統中央機関等が進出しています。とりわけ、地元金融機関は、当県経済の懐の深さを背景に総じて規模が大きく、県内12信金は全て本行の当座預金取引先となっているほか、農・漁協、労金等系統団体も全国屈指の規模を誇っています。

県内の預(貯)金・貸出構造（2018年3月末<郵貯を除き、信託勘定を含むベース>）をみると、総預(貯)金残高は29兆円、総貸出残高は16兆円で、うち地元金融機関が預(貯)金、貸出とも約9割のシェアを占めています。業態別のシェアをみると、地銀が約4～5割と高く、次いで、信金が約2～3割、農・漁協が約1～2割と続いています。

※ 12金庫のうち、浜松信用金庫と磐田信用金庫は2019年1月に、島田信用金庫と掛川信用金庫は2019年6月に、静岡信用金庫と焼津信用金庫は2019年7月に合併が予定されています。

### ▽県内の預(貯)金・貸出構造（2018年3月末）

	総預(貯)金		総貸出		預(貯)貸率 (%)
	残高 (億円)	構成比 (%)	残高 (億円)	構成比 (%)	
大手行	24,285	8.2	11,817	7.0	48.7
地銀	120,081	40.7	87,054	51.9	72.5
第二地銀	3,780	1.3	3,018	1.8	79.8
信金	79,730	27.0	38,714	23.1	48.6
信組・労金	10,897	3.7	7,815	4.7	71.7
農・漁協	54,083	18.3	13,147	7.8	24.3
その他とも合計	295,342	100.0	167,770	100.0	56.8
うち地元金融機関	267,302	90.5	148,828	88.7	55.7

資料出所：日本銀行静岡支店

以上



## 静岡県 の 主要 経済 指標

項目	1人当り県民所得		平均賃金 (現金給与総額)		有効求人倍率		消費者物価地域差指数 (持家の帰属家賃を除く総合)	
調査時点	<2015年度>		<2017年平均>		<2017年平均>		<2017年平均>	
全国	(千円) 3,190	(千円) 3,190	(千円) 316.9	(千円) 316.9	(倍) 1.50	(倍) 1.50	100.0	100.0
1位	東京	5,378	東京	411.9	東京	2.08	東京	104.4
2位	愛知	3,677	愛知	342.6	福井	2.01	神奈川	104.2
3位	三重	3,556	大阪	335.8	石川	1.85	埼玉	101.2
4位	栃木	3,481	神奈川	333.3	愛知	1.82	山形	101.0
5位	富山	3,373	滋賀	324.6	広島	1.81	京都	100.7
6位	静岡	3,316	茨城	322.4	富山	1.80	石川	100.4
7位	福井	3,196	広島	319.6	岐阜	1.79	兵庫	100.3
8位	群馬	3,145	群馬	312.4	岡山	1.78	千葉	100.2
9位	大阪	3,127	三重	311.3	香川	1.73	長崎	100.1
10位	茨城	3,079	栃木	310.5	群馬、鳥取、 島根	1.61	滋賀、大阪、 和歌山	100.0
11位	広島	3,074	福岡	309.8	—	—	—	—
12位	滋賀	3,058	石川	309.6	—	—	—	—
13位	宮城	2,987	岡山	308.5	長野、三重、 熊本	1.60	福島	99.9
14位	神奈川	2,986	静岡	307.2	↓	↓	↓	↓
15位	埼玉	2,977	福井	305.0	静岡 (19位)	1.53	静岡 (32位)	98.3
【出所】	内閣府 「県民経済計算」	厚生労働省 「毎月勤労統計調査（地方調査）」 (事業所規模5人以上、調査産業計)	厚生労働省 「一般職業紹介状況 (職業安定業務統計)」 (パート含む原数値)	厚生労働省 「一般職業紹介状況 (職業安定業務統計)」 (パート含む原数値)	総務省 「小売物価統計調査（構造編）」			

## 静岡県 の 主 要 経 済 指 標

項目	住宅地地価	製造業事業所数	製造品出荷額等	乗用車保有台数
調査時点	<2018年>	<2017年>	<2016年>	<2018/7月末>
全国	(千円/㎡) —	(事業所) 191,339	(億円) 3,020,355	(千台) 61,857
1位	東京 354	大阪 15,990	愛知 449,090	愛知 4,185
2位	神奈川 177	愛知 15,870	神奈川 162,881	埼玉 3,210
3位	大阪 149	埼玉 10,975	静岡 161,321	東京 3,165
4位	埼玉 111	東京 10,789	大阪 158,196	神奈川 3,069
5位	京都 107	静岡 9,299	兵庫 151,053	北海道 2,827
6位	兵庫 102	兵庫 7,996	埼玉 126,828	千葉 2,816
7位	愛知 101	神奈川 7,697	千葉 114,019	大阪 2,790
8位	千葉 73	岐阜 5,721	茨城 112,087	福岡 2,609
9位	静岡 65	福岡 5,348	広島 99,414	兵庫 2,323
10位	広島 54	新潟 5,339	三重 98,954	静岡 2,225
11位	沖縄 52	北海道 5,189	福岡 92,503	茨城 1,981
12位	奈良 52	茨城 5,154	栃木 89,467	広島 1,465
13位	福岡 49	長野 4,994	群馬 86,992	新潟 1,398
14位	滋賀 46	広島 4,920	東京 77,848	長野 1,381
15位	石川 43	千葉 4,815	滋賀 72,972	群馬 1,380
【出所】	国土交通省 「都道府県地価調査」 (用途別平均価格)	経済産業省 「工業統計調査」 (従業者4人以上の事業所)		(財)自動車検査登録情報協会 「都道府県別・車種別自動車 保有台数(軽自動車含む)」